

# 令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第1号

令和6(2024)年4月19日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## 気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に注意しましょう！

予想期間 4月下旬～5月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 出穂や開花の状況をよく観察し、麦種ごとの防除適期を逃さないよう、防除を徹底する。  
・ 不稔粒が発生したほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。  
・ RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 1 \(麦類の赤かび病\)](#)、[防除のポイントNo.18](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比196%、株率：平年比324%)。(+)  
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、虫体の他、マルチ上に脱皮殻などが確認されたら防除を行う。  
・ 発生初期のうちに、モスピラン顆粒水溶剤(RACコードI:4A)等を葉裏にもよくかかるように散布する。  
・ 施設内外の雑草は増殖源となるので除草する。

### 3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比28%、株率：平年比17%)。(～±)  
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・ 気門封鎖剤を活用するとともに、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布し、抵抗性の発達を抑制する。  
・ 親株での発生を防ぐため、管理作業は本ぼ作業の前、もしくは別に行う。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比105%、株率：平年比244%)。(±～+)  
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにスピノエース顆粒水和剤(I:5)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 トマト 黄化葉巻病(TYLCV、タバココナジラミが媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比345%、株率：平年比600%)。(+)  
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺が見られた際にトランスフォームフロアブル(I:4C)等を散布する。  
・ 発病株は耐病性品種であっても伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。  
・ タバココナジラミは黄化葉巻病(TYLCV)だけでなく黄化病(ToCV)も媒介するため、適切な防除を行う。

### 6 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比213%、株率：平年比345%)。(±～+)  
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。(～)

- ～土)
- (3) 対策
- ・多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。
  - ・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
  - ・予防を主体に銅剤やダコニール 1000 (F:M5) 等を散布する。発病が見られるほ場ではリドミルゴールド MZ (F:M3, F:4) 等を散布する。
- (4) 備考
- ・[キュウリべと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

## 7 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想
- 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 77%、株率：平年比 91%）。（±）
  - ・向こう 1 か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。（～±）
- (3) 対策
- ・雨水が滞留すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
  - ・予防を主体にプロポーズ顆粒水和剤（F:40, F:M5）を散布する。発生が見られる場合は、シグナム WDG (F:7, F:11) 等を散布する。
  - ・曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備考
- ・気温 15℃前後で雨が多いと発生が多くなりやすい。
  - ・[植物防疫ニュース No. 13（タマネギべと病）](#)を当センターHP に掲載中。

## 8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	灰色かび病	多	やや多	きゅうり	うどんこ病	やや多	多
	うどんこ病	やや少	平年並		褐斑病	多	多
トマト	葉かび病	平年並	平年並	たまねぎ	コナジラミ類	多	多
	うどんこ病	やや少	平年並		アザミウマ類	多	多
	灰色かび病	やや少	やや少				

### ○ 水稲の移植時期における病害虫対策

箱施用剤を使用し、いもち病や紋枯病等の病害やウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の害虫の発生を抑制しましょう。特に常発地、多発地では、積極的に使用しましょう。

### ○ いちご親株の管理

本ぼと親株の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

### ○ なし 黒星病

果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、DMI 剤を散布しましょう。昨年多発したほ場では、芽基部病斑が多くなる可能性があるため、特に注意が必要です。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から 2 週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険があるので注意しましょう。

[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中です。

### ○ かんしょ サツマイモ基腐病

本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和 6 (2024) 年 4 月現在、全国 34 都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。

健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

[サツマイモ基腐病に注意！](#)を当センターHP に掲載中です。

## 農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 4 月～6 月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

### 1 か月気象予報（予報期間 4 月 20 日から 5 月 19 日 4 月 18 日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

#### 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10%	10%	<b>80%</b>
降水量	30%	30%	<b>40%</b>
日照時間	<b>40%</b>	<b>40%</b>	20%

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課 (Tel 028-665-1244) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせは X (旧ツイッター) 「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センター ホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。